

INDEX

- p1 第6回岡山県医師会医師の勤務環境改善ワークショップ
- p2 令和3年度女性医師支援・ドクターバンク連携中国・四国ブロック会議
- p3 日本医師会女性医師支援センター・日本医学会連合 共催「令和3年度 女性医師支援担当者連絡会」の報告
- p4 第4回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ
ーゆっくりでも良い、指導医になろうー
- p5 山陽女子ロードレース救護班
- p6 シリーズ女性医師支援 渡辺病院のワークライフバランス、働き方改革への取り組み

第6回岡山県医師会医師の勤務環境改善ワークショップ

岡山赤十字病院／岡山県医師会女医部会 部会長 渡辺 恭子

令和3年8月1日に岡山県医師会館で医師の勤務環境改善ワークショップが開かれました。松山会長のご挨拶のあと、勤務医部会長の清水先生が令和2年度の事業報告並びに令和3年度の事業計画を発表され、女医部会は渡辺が令和2年度の事業報告（女医部会委員会、ピンクリボン活動・山陽女子ロードレースの救護、第3回女医ボスアワード等、女性の健康週間 県民公開講座はコロナウイルス感染拡大防止のため中止）、令和3年度の事業計画（復職支援事業、女性指導医の活躍の促進、学生のインターンシップ、女性の健康週間県民公開講座等）を報告しました。

次に「ここがポイント！医師の働き方改革」について社会保険労務士の佐田先生にお話をいただきました。「特別条項付き36協定」を締結する場合も使用者には安全配慮義務があること、長時間労働者が申し出た時は医師による面接指導が義務付けられていること、時間外労働及び休日労働を合算した時間数は1か月100時間未満でかつ2～6か月を平均して80時間

を超過しないこと、過半数労働代表労働者を選出すること等が挙げられますが、医師に関しては特別条項による規制は適用猶予されており2024年4月からの医師の時間外上限規制（A:年960時間/月100時間未満、B:年1860時間/月100時間未満、C:集中的技能向上水準:年1860時間/月100時間未満）がコロナでも延長とならず備えなければならない点に関して講演されました。

また特別講演は日本医師会常任理事の城守国斗先生に「医師の働き方改革について」オンラインで最新の情報を伝えていただきました。2020年12月に検討会で中間とりまとめが2021年5月に医療法の一部、2022年には書面評価、2023年度訪問評価が予定され、2024年に実施される。B・C水準対象医療機関の選定も準備され追加的健康確保措置（B・C）として連続勤務制限（28時間）・勤務間インターバル・代償休息が決められており、面接指導実施医師は勤務状況・睡眠負債・疲労の蓄積・心身の状況を確認し報告書・意見書を作成し、管理者は就業上の措置を講じる。2022年度から960時間を超える医師がいる医療機関は時短計画案を作成、医療機関勤務環境評価センターによる第三者評価を受け都道府県により特例水準医療機関の指定をうける労務管理の一層の適正化・タスクシフト/シェアの推進の取り組みが進められるわけですが、1860時間/年は155時間/月に相当し、勤務医の過重労働にはより一層の注意が必要です。



令和3年度女性医師支援・ドクターバンク連携 中国・四国ブロック会議

岡山赤十字病院／岡山県医師会女医部会 部会長 渡辺 恭子

令和3年度女性医師支援・ドクターバンク連携中国・四国ブロック会議が11月14日(日)各医師会をWeb会議システムで結んだオンラインにて開催されました。

まず、日本医師会女性医師バンクについて、神村常任理事から報告がありました。

・女性医師バンクの運用状況は、医師登録2,751件、施設登録5,948件、就業成立2,084件(累計)です。就業成立状況は、平成28年度以降毎年増加し、令和3年度は600件を超える成立が見込まれます。・新型コロナワクチン接種人材確保相談窓口を令和3年6月9日(水)に設置し、約1,000件の相談があり、478名(延数)を紹介しました。

・都道府県医師会ドクターバンク連携モデル事業を、令和2年度～令和4年度で実施し、3県医師会のドクターバンクと連携、1県医師会と女性医師バンク支部の設置で行っています。

・女性医師バンクの広報活動として、柔らかいタッチのPR動画(40秒2パターン)・多様な働き方を支えるハンドブックの作成・配布が紹介されました。その後、各県医師会が活動を報告し、鳥取県・広島県・山口県・高知県・愛媛県はドクターバンク利用が少なく、求人では岡山県79人・徳島県111人・香川県100人ですが徳島県は32件成立するも他県の成立は1桁でした。

復職・再研修体制、キャリアアップ支援に関して、鳥取県：JOY!しろうさぎネット・JOYしろうさぎ通信などで交流の場や、相談窓口を行っています。鳥根県：女性医師を対象に、ワークライフバランスについての交流会(えんネット交流会)、ワークライフバ



ランスセミナーを開催し、えんネットマガジンを年1回発行しています。

広島県：広島県医師会女性医師部会、大学の女性医師支援センター、広島県地域保健医療推進機構地域医療支援センターの3者で三本の矢会議、保育サポーターバンク等を設置しています。

山口県：大学キャリア支援室「オーダーメイドの復職支援」、ダイバーシティ推進室「研究支援制度」山口県医師会「保育サポーターバンク」キャリアアップ支援、男女共同参画応援宣言、講演会等

徳島県：男女にかかわらず復職支援、シニア医師のマッチング、復職時に公的病院で研修が行える体制で徳島大学との連携をとりながら進めています。

香川県：医学生と医師の卒後キャリア形成に関する情報交換会を開催しています。

高知県：医療再生機構―復職サポート体制の構築、大学―女性医師キャリア形成支援プログラム、医学生に男女共同参画の講義等を行っています。

愛媛県：愛媛県女性医師の働き方の現状と課題～メールインタビュー調査プロジェクト～を実施、愛媛大学医学部附属病院の「地域のマドンナドクター養成プロジェクト」での交流会の開催。

岡山県：「ドクターバンク」地域医師支援センターとNPO 医師研修支援機構と医師会の業務提携、「コロナ集団接種プラットフォーム」90名の医師派遣、令和2年から日本医師会と「女性医師バンク連携モデル事

業」、大学のMUSCUT、「天晴れ女性リーダー養成ワークショップ」「天晴れジョイボスアワード」等を報告しました。

来年度は広島県医師会での開催となります。

日本医師会女性医師支援センター・日本医学会連合 共催 「令和3年度 女性医師支援担当者連絡会」の報告

岡山市立市民病院／岡山県医師会女医部会 委員 坂口 紀子

上記の会議が、令和3年12月5日（日）13時～15時10分、WEB会議との併用で日本医師会館小会議室から発信して開催されました。令和2年はコロナ禍の影響で開催が見送られましたので、リモートとはいえ2年ぶりでした。岡山県医師会からは神崎寛子専務理事、女医部会からは渡邊恭子部会長、村田副部会長、漆原委員、片岡委員（岡山大学からの参加兼務）と共に参加しました。日本医師会・神村裕子常任理事の司会で開会、中川俊男日本医師会会長、門田守人日本医学会連合会長の挨拶がありました。門田守人会長が「女性を支援するという言葉が果たして正しいのか。また、支援を受ける側に対する潜在的な差別の意識は残っていないのか、アンコンシャスバイアスを見逃さぬよう改めて考える必要がある」と述べられたのは印象的でした。

議事の初めに「女性医師のキャリア支援」のタイトルで、日本医師会女性医師支援センター センター長今村聡先生のご講演がありました。新専門医制度へ

の移行が進行していますが、女性医師についてはライフイベントによる休職など考慮すべき事情がありうるので、各領域学会での統一した対応と丁寧な情報提供が必要と述べられました。また、2021年6月に育児・介護休業法が改正されており、2022年4月から段階的に施行されます。男性版産休制度の創設など変更点があります。雇用保険法の整備については、2022年から育児休業給付についての規定整備もあり、日本医師会では「医師の多様な働き方を支えるハンドブック」を発行しているので、女性医師バンクへの申し出により配布に必要な冊数を送付可能との案内がありました。

次に、神村裕子常任理事が「女性医師の多様な働き方 一産業保健を中心に」の演題で産業医の就業実態、制度、業務内容などについて述べられました。

3番目の講演は「医師の働き方改革：日本医学会連合からの方向と提言」で日本医学会連合理事・岸玲子先生からでした。医師の長時間労働の歴史と現状報告をされ、課題と改善に向けての提言がありました。

休憩をはさみ、大学、学会、医師会の取り組み発表として、①札幌医科大学・西田幸代先生（日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員）、②日本外科学会・川瀬和美先生（外科医労働環境改善委員会委員）、③兵庫県医師会・相馬葉子先生（兵庫県医師会理事 女性医師支援担当）からの発表がありました。①では札幌医科大学と泌尿器科学会が行ったコ



写真は日本医師会提供の会議室風景

コロナ禍における医師への影響に関するアンケート結果が報告されました。結果の分析で、ワークライフバランス（WLB）を楽にする因子として「女性であること」が抽出されていました。コロナ禍で家庭における女性の負担が増えた一方、パートナーの帰宅が早くなった、学会などの移動時間の短縮等、WLBの改善につながる面もあり、女性のレジリエンスの高さを示しているのではないかという考察でした。②では日本内科学会、日本産科婦人科学会、日本外科学会を対象に、女性医師の妊娠出産に関する調査を行っ

た結果が報告され、「長時間労働が少子高齢化に関与していることが示されており、引き続き改善策の検討が必要」と述べられました。③では兵庫県医師会男女共同参画推進委員会が行っている14項目の事業内容について報告されました。

この2年の間には、医療界にはCOVID-19感染という大きな嵐が吹き荒れ、また以前から予定されていた働き方改革も進行しています。地域でも、引き続き情報取得と現場への浸透が重要と感じました。

第4回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ —ゆっくりでも良い、指導医になろう—

岡山大学病院 ダイバーシティ推進センター／助教 藤井 智香子

2021年12月12日に第4回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ—ゆっくりでも良い、指導医になろう—がオンラインで開催されました。COVID-19感染流行対策のため昨年に引き続きオンライン開催となりましたが、多くの方が様々な地域からご参加されました。



宮本聡美先生

川崎医科大学救急医学准教授宮本聡美先生が栄えある第4回天晴れジョイボスアワード大賞を受賞され、「臨床現場に立ち続けるために～患者さんは最高の師～」についてご講演くださいました。宮本先生は小児科医・新生児科医としてキャリアを開始され、その後救急医として現職に就かれて、重症小児の予後を改善したいという想いを持って診療と教育を実践されています。ご講演では、指導する側・される側ともに成長を感じ、モチベーションを保ちながら、患者さんに誠実に責任をもって向き合うことができるように修練することの大切さを教えてくださいました。そして多様性を容認する力、相手のことを察して、思いやる想像力の重要性をお話くださいました。また、「人を救うには自分が健康でなければならない」と



という言葉に、多くの医療人が勇気づけられました。

岡山大学学術研究院医歯薬学域総合内科学 講師 小比賀美香子先生は天晴れジョイボスアワード奨励賞を受賞され、「『女性×医師』のあたり前を問い直す」と題してご講演いただきました。キャリアヒスト



小比賀美香子先生

リーに基づいて、医学教育との出会いや米国での客員研究員としてジェンダーやメタ認知について学ばれたこと、日本に戻られてプロフェッショナリズムやキャリアなどの医学教育に取り組まれたことをお話くださいました。そしてナラティブ・メディスンやビジュアルアート教育、哲学カフェなどの現在の取り組みについても

ご紹介くださいました。ジェンダーや医師・医学の当たり前を振り返り、問い直すこととお話しされたことが非常に印象的でした。最後に厚生労働省健康局がん・疾病対策課長（兼務）内閣官房内閣参事官（ワクチン接種推進担当大臣付）の中谷祐貴子先生より講評を賜り、盛会のうちに終了しました。

お二人の先生ともご自身の体験を振り返りながら非常に深く心を打つお話をしてくださり、医療人としての

在り方を改めて考え、励まされるようなご講演でした。この場をお借りして、受賞された先生方や、ご参加いただいた先生方、多職種の方々に深謝申し上げます。来年こそCOVID-19流行が落ち着き、皆様に直接お会いできることを願い、また女性医師が指導医を目指し、自身のキャリアを形成することを支援するという素晴らしい主旨であるこの会が今後も益々発展し、続いていくことを祈念しております。

山陽女子ロードレース救護班

平島クリニック/岡山県医師会女医部会 委員 吉岡 敏子



図1

2021年12月19日山陽女子ロードレースの救護班を岡山県医師会女医部会から三人が参加して務めました。(図1)マスクが当たり前で記念写真の時も外すのを忘れていました。

当日は最低気温がマイナス0.8℃と冷え込んでいてランナーの方々は体が冷えないように直前まで入念にアップしておられました。レースの前後に日が射してくると暖かく感じられました。

10kmの部ランナー最後尾の救護車に同乗する事を昨年から要請され今年が私が乗せて頂きました。車はジャンボタクシーに救護車と掲示をした車で、運転手さんもタクシー会社の方とのこと。安心して乗って居られました。(図2)

運動公園内の西側、武道館南のあたりでたくさんのパトカーや白バイが並んでいて「一度にこんなにたくさんの白バイをみたのは初めてだ」とはしゃいでしまいます。

タクシーの屋根にルーフキャリアのような器具で電



図2

光掲示の時計を取り付けているのも初めて見ました。

先導の白バイは女性警察官の方二人で赤い革ジャンがカッコ良いです。

いよいよハーフマラソンの部が出発して、15分遅れで10kmの部も出発。

岡山県陸上競技連盟の方も同乗されていたので「10kmのランナーの最後尾がハーフの先頭に抜かれて混ざって走る年もあるのよね」などお話を聞かせて頂き「混線したらややこしい」と頑張って走って頂くよう祈りながら追尾していました。

10kmの部で最後尾の方が制限時間内に決められた5.3キロ関門まで到達出来なかったため救護車に乗られて、引き続き走っておられる方を追尾しながらゴール地点まで帰りました。とてもシビアな世界です。

岡山の冬の風物詩、山陽女子ロードレース大会。今年が第40回です。有森裕子杯ハーフマラソン、人見絹枝杯10kmロードとのこと。

私は第37回大会にも救護で参加させて頂きました。

まだコロナの影響などなくスタジアム1階にある陽当たりの良いガラス張りの部屋から「有森裕子さんと増田明美さんがいらしている!」と喜んでのんびり観戦させて頂いていたのを思い出します。

一生懸命走っている方を見るのは清々しく楽しいです。

マラソンや行事がコロナ禍の影響で中止になりラン

ナーの方も走る機会が減り体調管理が難しかったのではないかと思います。

コロナ感染が落ち着いて色々なスポーツイベントが元通りに開催出来たらなと思いながら冬の日を過ごしました。

皆様もぜひ一緒にできればと思います。

シリーズ
女性医師支援

病院での
取り組み

第27回

渡辺病院のワークライフバランス、働き方改革への取り組み

医療法人思誠会 渡辺病院 院長 遠藤 彰先生
副院長 溝尾 妙子先生(文責)

【当院について】

当院は、一般病床55床、療養病棟33床、合計88床を有する病院で、地域の人々の生活を支える地域に密着した病院です。かかりつけ医としての役割、あらゆる救急の初期対応、急性期治療、退院支援、在宅療養支援など、いわゆる総合診療を行っています。その総合診療を担うのは院長、副院長、自治医大卒の医師で、時期によっては地域卒の医師や総合診療専門医プログラムの医師も加わり、地域の医療ニーズに応えています。

【当院のワークライフバランス】

当院のスタッフはほとんど地域住民で、8割以上が女性です。「子育てや介護しながら働く」が当たり前の風土で、病院全体が家庭を大事にし「お互い様」の雰囲気があります。

当院では、個人個人の家庭環境に応じて、柔軟に勤務形態を調整することができます。数少ない男性職員も育児休暇取得に積極的です。保育園料の補助、子育てワーキンググループもあります。

新見市には新見医師会立の保育園『さくらんぼ保育園』と病児・病後児保育があり、医療従事者のお子さんが優先的に入ることができます。20時まで延長保育があり医療従事者のニーズに対応しています。

【当院の女性医師支援】

(産休・育休中の代替医師派遣)

地域医療では医師一人にかかる負担が大きく、産休・育休で一人抜けると、地域医療の提供にも大きく影響します。実際、当院で初めて女性医師が妊娠した際には、代替医師が必要でした。通常では医局から派遣されることが多いですが、地域では総合診療スキルが必要であるため、総合診療の各関係機関に掛け合いました。岡山大学医療人キャリアセンター



さくらんぼ保育園

MUSCATの片岡教授にお願いし、岡大のキャリア支援枠利用経験者やサポーターを中心としたメーリングリストを利用して代替医師を募集したところ、数人が名乗りでてくれました。そして、週2回（月曜1名、水曜日に順番で3名）来てもらうことになりました。これが現在の、キャリアセンターMUSCATの産休・育休医師の診療支援ネットワークとなっています。（図1）

図1



また、新見市内、岡山県北地域の医療機関にも派遣を依頼し、市内医療機関から週1回、高梁地域の医療機関から週1回派遣してもらいました。週4日派遣医が外来診療や検査を担うことになり、常勤医への負担は軽減し、女性医師も休むことへの負い目を感じず、安心して出産、育児に臨むことができました。

（復職後のフレキシブルな勤務形態）

本人の希望で産休明けからの復職となりました。少しずつ慣らすために、3カ月目から週2回、4カ月目からは週3回と柔軟な働き方を病院側が承認し、無理なく復職することができました。産後復帰のステップアップの時期も、他の常勤医の負担にならないように、2名の代替医師はそのまま勤務を継続しました。

（2人目の事例）

2018年4月から常勤医師として赴任した女性医師が、2020年11月に出産し1年間の育児休暇を取得しました。その時もキャリアセンターMUSCATの産休・育休医師の診療ネットワークを利用し、3名の医師が週1回順番に来てくれました。また、市内の医療機関からも医師を派遣してくれました。彼女は復職していますが、無理のない働き方を模索しています。

【医師の働き方改革にむけて】

地域では医師一人にかかる負担が大きいです。全ての医師が健康的にワークライフバランスを保つために働き方改革を進めているところです。地域医療では多職種連携で成り立っていることから、医師の働き方改革も多職種の協力が必要です。ありがたいことに、当院では積極的に多職種が医師の働き方改革に関わり、医師が休める診療体制、効率よく働ける環境整備、タスクシフトについて検討しています。

【病院長から】

当院副院長の溝尾妙子医師は、岡山大学キャリアセンターMUSCATのサテライトオフィス（PIONE）のプロジェクトリーダーですが、その他に、岡山県医師会女医部会委員、新見医師会役員、新見市ドクターネットワーク会長等の役職に従事しています。PIONEが地域で働く女性医師支援をミッションにしていることもあり、当院の地域医療や女性医師支援の取り組みに際しては、キャリアセンターMUSCATから多大な支援をいただいています。

中小病院は自施設のみで医師の長期休業に対応するのは難しく、大病院に支援を要請することが多いのですが、大きくても単一の病院からの支援では診療体制を維持するのは困難です。今回は、キャリアセンターMUSCATをはじめ、大学、行政、地域医療機関の沢山の方々が協力して支援していただいたお蔭で、診療体制を維持することができました。このように女性医師が地域で育児と仕事を両立できる体制を作り、地域で働く女性が増えれば、地域医療の発展に繋がると考えます。キャリアセンターMUSCATとの橋渡しをしてくれた溝尾医師をはじめ、支援していただいた皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。



左から 溝尾医師 遠藤医師 北川医師

人生100年時代、 見える目で豊かな時間を

日時 令和4年 3月13日
13:30~15:15

主催:(公社)岡山県医師会 企画:(公社)岡山県医師会 女医部会 眼科部会

申込締め切り
令和4年
3月10日(木)

参加費無料
先着500名様
(事前予約制)

1. 知っておきたい白内障の話 (13:35~14:15)

岡山大学 眼科 講師 木村 修平 先生

60歳以上の方で白内障がない方はおられません。白内障はどんな状態で、いつ手術をするのが良いのか、自分にあった眼内レンズの選び方など、患者さんからよく質問される疑問について分かりやすく説明したいと思います。

2. 「緑内障」について知っておくべきこと (14:25~15:05)

岡山済生会総合病院 上席診療部長 成田 亜希子 先生

「緑内障」は日本における失明原因の第1位であり、40歳以上の日本人の20人に1人が緑内障にかかっているといわれています。緑内障から目を守るために皆さんに知っておいていただきたいことをお話しします。

お申し込み

インターネット環境にあるパソコン等により、下記申込URLまたは二次元コードよりお申込みください。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_KNurHoTxSLmkZhoq7LLakQ

★上記事前申込登録後、すぐに視聴用URLをメールにてお送りいたします。当日はそちらからご参加ください。なお、返信メールが届かない場合は、登録事項をご確認のうえ再度登録してください。



お問い合わせ先

公益社団法人岡山県医師会
女性の健康週間 県民公開講座 係
TEL 086-250-5111

編集後記

私の専門は、診療科別の病院勤務女性医師の割合が特に多い皮膚科ですが(2018年の統計では54.8%)入局した平成初めには、医局内に先輩の女医さんは少なく、2割余りだったような記憶が有ります。

産休は産前6週と産後8週。育休はなく、今や死語となりつつある寿退職(結婚に伴う退職)や、妊娠を機に退職される先輩が多かったとお聞きしています。胎教でモーツァルトを聞くのが流行っていた頃の出産後、復帰翌月には直当も当たっていました。

岡山大学に院内保育はあると聞いていましたが、医師で利用される方はいないとか、医師は嫌われるとか、自分たちのなかでは選択肢にはなりませんでした。

幸い私たち夫婦の両親がとても良く見てくれたのと、丈夫な子供だったので私は仕事を続けられました。岡山市内の病院に赴任し第2子の妊娠が判ると、す

ぐ帰局して医局内でのフォローを頂きました。とりあえず専門医をとるなど目先の事で一杯で、目標も夢もないような状態だったかなあと振り返っております。

今回の女医部会報でも、男女を問わず働き方改革が数値目標として示されていること、保育施設の充実、女性も指導的な立場を目指すなどサポート体制やロールモデルが沢山あり女性が仕事をしやすい環境が整いつつあるなと期待しております。

県外からおいでになった先生、県外に行く先生方から岡山での医療体制がいかに充実しているか良くお聞きします。

恵まれている状況を生かして、若い皆様やご指導されるベテランの先生方のますますのご活躍と新型コロナウイルスの終息、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

西大寺医師会 平島クリニック 吉岡敏子